

大丈夫よ！ お母さん！

vol.20

教育コーディネーター 中西美沙子

（今回のテーマ）
風の贈り物

緑に染まった、初夏の風が吹いています。遠く近く、のんびりした鳥の音が聞こえます。自然の華やきを一番感じるのは、こんな季節ではないでしょうか。

爽やかな風を受けながら、2人の娘たちが今日も「子育て支援センター」にでかけているようです。2人とも2歳になる子がいる親、そして地元でない地で、子育てをしています。喜びも不安も、いろいろなお母さんたちと情報交換したり話をするのが、たのしいようです。今は、うれしいこととに全国にたくさん「支援センター」があるようです。日本の福祉も時代のニーズに合わせて変わったものなのです。

生活のスタイルと子育ては、時代によって変わると、私は思います。以前「核家族」という言葉が流行（はや）りました。家族のあり方が大きく変わった時代を端的に表している言葉です。当時の新聞などの論調は、核家族を「問題点」としていました。今まで伝わってきた「日本の家族の文化」が薄くなるかと考えたからでしょ

う。人は誰かの知恵を頼りに生きていきます。「教えられること」「尊敬すること」が結びついていたのが日本でした。かつての子育ては、そのようにして成されていたのです。

今では「核家族」はごく普通なもの、感じるようになりました。悪いことではありませんが、少し恐れていることもありまます。日本人が持っていた最良なものとしての子育てを無くしはしないだろうか、という懸念です。家族の単位が変わるといことは、子育てもその時代にあった方法が模索されるということでしょう。

「地縁」という言葉があります。家族が地域に住んでいる人たちと作るコミュニティのことです。その地縁が、現代では失われつつあります。私たちは失ったものを単に懐かしむだけでなく、今、何が必要かを考え行動しなくてはならないでしょう。

先日、「地縁の復活をお母さんたちが呼びかけたニュースを見ました。地縁の復活というタイトルは、私がつけたものですが、そのお



母さんたちはフェイスブックやツイッターなどを利用して「地縁の復活」を目指しています。子どもに安全な公園はどこか。安心な食品や野菜をどのように得るか。地域のお祭りはどこで行われるかなど、子どもがいきいきとする情報を伝え合っています。私は彼女たちに希望をもっています。家族という砦（とりで）の代わりに、開かれた地縁を積極的に広げようとしているからです。

私は夢想します。彼女たちが求めるものの中に「自然」を置いてほしいと。日本は四季に恵まれた国。でもその恩恵を、私たちは受けているでしょうか。観光から得る自然も良いのですが、身近なところにも自然は満ちています。近ごろは、子育てを「知育」と捉える傾向がありますが、小さな子は、体を使うだけではなく自然の息吹と接するのが良いのではないと思えてなりません。

私が主宰する文章教室の「大人のクラス」の生徒さん。彼女は大きな梅園を持っています。自然の中で生活しているせいか、生きものを見る目がとても優しいのです。

トリーは草の中を歩く わざわざ草の中を歩く

しろつめ草 つんで話してたわ
た毛とまちがえて ふっと吹いてた

何も飛んでいかない花を じっと
みていた

この詩からは、自然が「人を見つめている」という思いがわきます。乾いた時代を生きている私たちにとって必要なものは、人と人を結びつける気持ちの強さと、自然がもたらす潤いのある生活を見つけて出すことではないでしょうか。



Profile

教育コーディネーター
中西美沙子

執筆・講演活動のかたわら、様々な部門の文化事業を展開する「(株)クリアシオン」の代表。文章教室「スコーレ」画廊「キューブブルー」「建築プロデュースすまい」「食彩いわさか」ときわ薬局」など。文章教室は書き方を教えるだけではなく、生き方や考える視野を学ぶところです。

☎ tel 053-456-3770

中西美沙子

検索

ピアノシモでね

中西美沙子 著

著書の「ピアノシモでね」（東京書籍）は、中日新聞に連載された人気コラム「つかまえて！こころ」をまとめたもの。同著には、親子の問題もいろいろ描かれています。（税込1,500円）

※お求めは浜松市内の谷島屋で。

